

紀伊半島における 中世の備前焼流通

北野 隆亮

KITANO Ryusuke

【要旨】

埋蔵文化財発掘調査で出土した中世の備前焼出土事例を集成し、時期別の分布や出土傾向などを分析し、紀伊半島における備前焼の流通状況を整理した。

Ⅱ期（鎌倉時代中期）の分布は、北部地域に位置する紀ノ川流域の根来寺遺跡を中心に分布する。備前焼は、まず鎌倉時代中期に根来寺遺跡に搬入された。Ⅱ期の備前焼を一定量所有する根来寺遺跡は、備前焼流通において特別な存在であるといえる。Ⅲ期（鎌倉時代末期～室町時代初頭）は北部地域が流通の中心であるが、南西沿岸部の主要な城館の周辺にも分布し、日置川下流域の安宅荘を南限とした地域に一定の面的分布範囲を広げる。備前焼の出土状況などから安宅氏が海上輸送に水軍領主として関わっていたことを看取できる。また、南東沿岸部の新宮城下町遺跡に孤立的分布がみられる。この時期の備前焼は鎌倉でも出土しており、その流通路として太平洋海上輸送が考えられており、新宮城下町遺跡は中継地として位置付けられる。Ⅳ期（室町時代前期～中期）は、出土事例が急激に増加する。半島南西沿岸部に濃密に面的に分布し、川関遺跡など半島南東沿岸部でも一定の面的分布を示す。Ⅴ期（室町時代後期～末期）に入ってからも多く出土事例がみられ、その主体を和歌山県北部地域が占める。特に北部地域において十六世紀に新たな出土地が増加する。出土量についても増加傾向を示し、前段階までの壺・甕・播鉢に加えて、水差、建水、水屋甕、徳利、浅鉢、皿、盤などの新器種が加わる。

紀伊半島は中世を通じて備前焼流通における商圏拡大の場であったといえ、中世末期には紀伊半島南東沿岸部までを面的流通圏に入れることに成功した。紀伊半島太平洋沿岸部を流通圏に入れることは、関東方面への太平洋沿岸海上輸送ルートの確保といった意味合いも強いといえる。

キーワード

紀伊半島 備前焼 根来寺遺跡 水軍領主安宅氏 太平洋海上輸送

はじめに

本稿は、中世の紀伊地域の埋蔵文化財発掘調査において普遍的に出土する備前焼を扱う。和歌山県内及び三重県南縁部の中世備前焼出土事例を集成し、時期別の分布や出土傾向などを分析することによって、紀伊半島の中世における備前焼流通の実体を明らかにする。

一 備前焼の概要と中世における流通

備前焼は、岡山県の東南部・備前市伊部周辺に生産地のある焼締め陶器の一群である。古代の須恵器技術を受け継いだ中世須恵器として、平安時代末期に登場し、現代に継続する有力な窯業場として知られる。

中世当時の生活必需品であった壺・甕・播鉢を集中的に生産し、西日本を中心に大量に流通していたことが、各地の遺跡からの出土事例や中世絵画（『一遍上人絵伝』等）などから知られる。

中世の備前焼流通は一九八五年段階において、全国で四九五カ所、近畿地方では一三五カ所の出土事例が示された。^①出土事例は、備前焼間壁編年の時期区分（Ⅰ～Ⅴ期）を用い、^②西日本を中心とした地域で流通状況を分析している。

Ⅰ期（平安時代末期～鎌倉時代初頭）は生産地の岡山県を中心とした京都府から広島県までの範囲十二カ所に分布し、百間川遺跡や草戸千軒町遺跡など主に港湾を控えた集落遺跡から大甕や壺が出土する。Ⅱ期（鎌倉時代中期）は出土例を三二カ所に増加させるが、面的な拡大はほとんど認められず、点的に神奈川県（鎌倉）、九州南部の鹿児島県川内、和歌山県根来寺遺跡などで出土し、特に近畿地方周辺では大阪・京都などにみられず根来寺遺跡の一カ所で確認される。Ⅲ期（鎌倉時代末

期～室町時代初頭）は生産量が増加する時期で、京都府以西のほとんどの地域九三カ所で出土し、東限は神奈川県（鎌倉）、西限は沖縄県にまで分布域を拡大する。Ⅳ期（室町時代前期～中期）の分布域は前代とほとんど変わらないが、出土例が二三カ所に及び、出土量も格段に増加する。Ⅱ期からⅣ期までの備前焼器種については、壺・甕・播鉢が主として流通する。Ⅴ期（室町時代後期～江戸時代初頭）は南・北・西の大窯が築かれる時期で、出土例は一二七例と減少傾向を示すが、根来寺遺跡や尾道中世遺跡など一カ所の遺跡で大量に出土する事例がある。また、主要器種の壺・甕・播鉢に加えて、水差、建水、水屋甕、徳利、浅鉢、皿、盤などの茶陶や食器が各地で出土している。

現在においては、更に出土事例は増加していると思われるが、全国的な備前焼の流通状況についての概要は一九八五年段階の研究の枠を越えるものではないと考えられる。

その後、愛媛県内を対象とした備前焼出土資料の集成研究が行われ、出土遺跡の分布などから備前焼流通について整理された。^③それによると、備前焼の搬入はⅢ期から始まり、Ⅳ期に急激に増加し、Ⅴ期にその様相が継続されること、流通する器種は甕と播鉢が主体であり、壺の需要がやや低いこと、Ⅲ期からⅣ期にかけて出土遺跡数が格段に増加し、その一方で多く出土する遺跡とそうでないものに二極化し、Ⅴ期にはその傾向が非常に顕著になることなど、愛媛県内での備前焼流通の様相が明らかにされ、小地域、すなわち一消費地での備前焼についての分布研究が有効であることが示された。

二 紀伊半島における中世備前焼の出土分布

紀伊半島における中世備前焼の先行研究として、一九八二年に紀伊風土記の丘資料館で行われた特別展『中世のやきもの』での展示図録解説

がある。図録解説は、和歌山県内における中世の焼物の全体的な出土状況がまとめられており、備前焼の出土傾向などが述べられている。それによると、備前焼は鎌倉時代に県下に搬入され始め、蔵骨器としての使用例が多い。白浜町長寿寺出土大甕は暦應五年（一三四二）銘がみられ、紀年銘を有する備前焼最古例である。経塚の外容器としては常滑・渥美が用いられ、備前焼の使用例がみられない。室町時代後期の例として、西庄Ⅱ遺跡や根来寺遺跡などから大量に出土し、大甕・壺・播鉢のほか盤・鉄鉢・船徳利などが加わるなどが指摘され、備前焼出土地分布図に二三例の出土地が示された^④。

以上の研究成果を踏まえ、二〇〇二年に和歌山県内の中世備前焼出土事例について、埋蔵文化財発掘調査報告書や市町村史などを検索し、県内において六二例を集成した^⑤。二〇〇五年には出土事例を再確認し五例を追加し、六七例を集成した^⑥。その後十年が経過し、埋蔵文化財の発掘調査によって出土例が増加したことなどから、二〇一五年に再び集成作業を行い、二四例を追加し、和歌山県内において九一例を集成した^⑦。

本稿では、前稿（北野二〇一五・二〇一九）で遺漏していた和歌山県内の事例や新事例、三重県南端部を含む紀伊半島南東沿岸部の新事例を加え、紀伊半島において一〇一例を集成することができた（図1）。

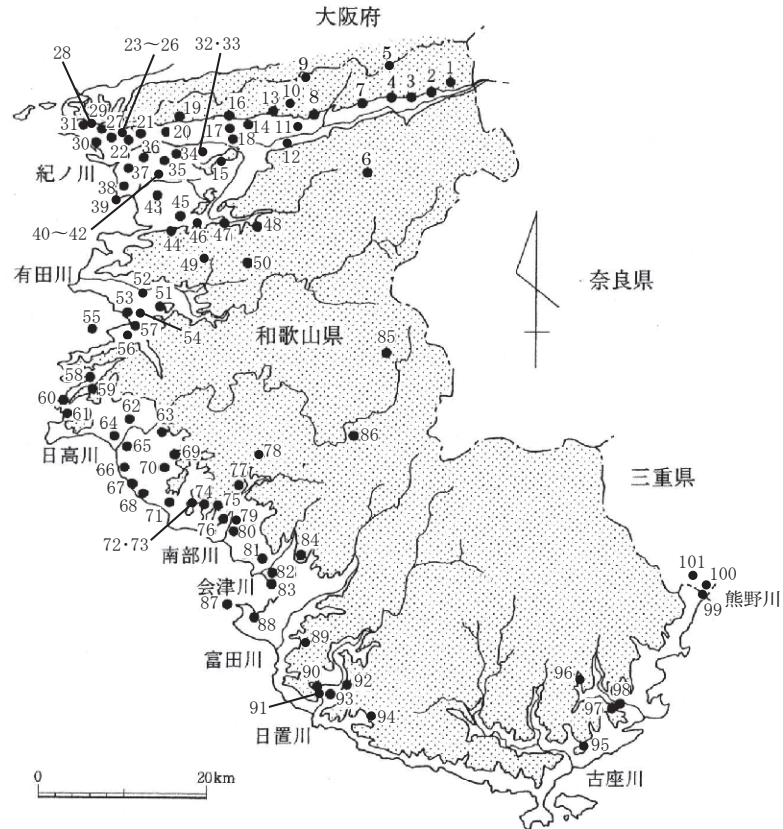
紀伊半島における全体的な分布をみると、和歌山県北部の紀ノ川流域と湯浅町から白浜町にかけての紀伊半島南西沿岸部に濃密に出土し、それらを中心として半島南東沿岸部の三重県南牟婁郡紀宝町までの範囲に広く分布する状況をみてとれる。

時期別にみていくならば、備前焼出土の早い時期（Ⅱ期）のものは根来寺遺跡（16）で出土しており、器種は播鉢に限られるが一定量出土している。近年、丁ノ町・妙寺遺跡（9）からも播鉢が出土した。Ⅱ期の出土例は、この根来寺遺跡とその周辺に限られることから、根来寺と生産地伊部との間に特別な関係があると推定できる（図2）。

次にⅢ期の事例は、和歌山県北部の紀ノ川流域で、東家遺跡（3）、高尾遺跡（7）、佐野遺跡（8）、粉河寺遺跡（10）、根来寺遺跡（16）、西田井遺跡（22）、西庄Ⅱ遺跡（31）の七遺跡がある。また、紀ノ川河口部に位置する和歌山平野の南部から隣接する海南市にかけて坂田遺跡（43）、大野城跡（44）、木津遺跡（46）の三遺跡がみられ、和歌山県北部で合計十遺跡を数える。紀伊半島南西沿岸部では、手取城跡（63）、小松原Ⅱ遺跡（64）、岩内Ⅰ遺跡（65）、城山城跡Ⅱ（榎城跡）（73）、鳶之巣城跡（78）、鶴ヶ城跡（86）、長寿寺（90）、安宅本城跡（93）の八遺跡がみられる。半島南東沿岸部では、新宮城下町遺跡（99）がある（図2）。

この段階では備前焼の器種は甕と播鉢が主体をなし、壺はやや少ない傾向がある。合計十九遺跡で出土を確認した。県北部の紀ノ川流域を中心とした地域に十例がみられ、和歌山県北部地域が流通の中心であるといえる。また、紀伊半島南西沿岸部に位置する手取城跡（63）、小松原Ⅱ遺跡（64）、鳶之巣城跡（78）、鶴ヶ城跡（86）など日高川流域から南部川流域にかけて分布域があり、少し距離を置いて日置川流域の長寿寺（90）と安宅本城跡（93）にみられる。更に、海岸線の距離で八〇km離れた半島南東沿岸部の新宮城下町遺跡（99）に孤立的に分布がみられる。前段階と比較して出土地の分布増加から、紀伊半島南西沿岸部の主要な城館にポイント的に入り、日置川流域まで一定の面的分布範囲を拡大させたことを示す。また、半島南東沿岸部の新宮城下町遺跡に孤立的分布がみられる点は重要である。この時期の備前焼は鎌倉でも出土しており、その流通路として太平洋海上輸送が考えられており、紀伊半島沿岸部を経由したものであり、半島南西沿岸部や南東沿岸部での出土例の分布増加はその輸送を裏付けるものとしても評価できる。

Ⅳ期に入ると、出土事例五八例と急激に増加する。和歌山県北部の紀ノ川流域と湯浅町から白浜町にかけての紀伊半島南西沿岸部に濃密に分



番号	市町村名	遺跡名等	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅴ期
1	橋本市	隅田八幡神社跡			●	●
2		利生護国寺			●	●
3		東家遺跡		●		
4		医王寺跡				●
5		長教城跡			●	
6	伊都郡高野町	金剛峯寺遺跡			●	●
7		高尾遺跡		●		
8	伊都郡かつらぎ町	佐野遺跡		●		
9		丁ノ町・妙寺遺跡	●			
10	紀の川市	粉河寺遺跡		●		●
11		史跡旧名手宿本陣				●
12		荒見庵寺				●
13		猪垣遺跡				●
14		東三谷遺跡				●
15		北山三崎遺跡				●
16	岩出市	根来寺遺跡	●	●	●	●
17		岡田遺跡			●	●
18		西国分Ⅱ遺跡			●	●
19	和歌山市	山口遺跡			●	●
20		川辺遺跡			●	●
21		北田井遺跡			●	●
22		西田井遺跡		●	●	●
23		小豆島西遺跡			●	●
24		有功遺跡			●	●
25		六十谷遺跡			●	●
26		平井遺跡			●	●
27		中野遺跡			●	●
28		城山遺跡			●	●
29		木ノ本Ⅲ遺跡			●	●
30		松江			●	●
31		西庄Ⅱ遺跡		●	●	●
32		岩橋遺跡			●	●
33		岩橋高柳遺跡			●	●
34		鳴神Ⅴ遺跡			●	●
35		秋月遺跡			●	●
36		太田・黒田遺跡			●	●
37		和歌山城跡			●	●
38		関戸遺跡			●	●
39		雑賀崎台場跡			●	●
40		津泰Ⅱ遺跡			●	●
41		井辺遺跡			●	●
42		神前遺跡			●	●
43		坂田遺跡		●	●	●
44	海南市	大野城跡		●	●	●
45		岡村遺跡		●	●	●
46		木津遺跡		●	●	●
47	海草郡紀美野町	下佐々Ⅲ遺跡		●	●	●
48		河野城跡Ⅱ			●	●
49	有田郡有田川町	米見屋城跡			●	●
50		粟生遺跡			●	●
51		長樂寺			●	●

番号	市町村名	遺跡名等	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅴ期
52		藤並地区遺跡			●	●
53	有田郡湯浅町	深寺寺			●	●
54		湯浅城跡			●	●
55	有田郡広川町	鷹島遺跡			●	●
56		広八幡神社			●	●
57		広城跡			●	●
58	日高郡由良町	護国寺跡			●	●
59		海宝寺跡			●	●
60	日高郡日高町	小浦海岸			●	●
61		津久野遺跡			●	●
62	日高郡日高川町	真妻丹生神社			●	●
63		手取城跡		●	●	●
64	御坊市	小松原Ⅱ遺跡		●	●	●
65		岩内Ⅰ遺跡		●	●	●
66		蔵井戸墳墓		●	●	●
67	日高郡印南町	津井西王子跡			●	●
68		津井火葬墳墓			●	●
69		美影蔵骨器出土遺跡			●	●
70		竜法寺跡			●	●
71		西の地遺跡			●	●
72		城山城跡Ⅰ(鳴神城跡)		●	●	●
73		城山城跡Ⅱ(板城跡)		●	●	●
74	日高郡みなべ町	市谷山城跡			●	●
75		広畑火葬墳墓			●	●
76		青蓮台墳墓群			●	●
77		平須賀城跡			●	●
78		齊之巢城跡		●	●	●
79		徳蔵地区遺跡		●	●	●
80		高田土居城跡		●	●	●
81	田辺市	高山寺遺跡			●	●
82		上屋敷Ⅰ遺跡			●	●
83		上屋敷Ⅱ遺跡			●	●
84		高尾山終塚			●	●
85		殿内内遺跡			●	●
86		鶴ヶ城跡		●	●	●
87	西牟婁郡白浜町	瀬戸崎沖海底			●	●
88		壇伽平			●	●
89		要害山城跡			●	●
90		長寿寺		●	●	●
91		中山城跡			●	●
92		八幡山城跡			●	●
93		安宅本城跡		●	●	●
94	西牟婁郡すさみ町	神田城跡			●	●
95	東牟婁郡古座川町	佐部城跡			●	●
96	東牟婁郡那智勝浦町	那智山坊跡			●	●
97		藤倉城跡			●	●
98		川関遺跡			●	●
99	新宮市	新宮城下町遺跡		●	●	●
100	三重県南牟婁郡紀宝町	鶴殿西遺跡			●	●
101		羽山地遺跡			●	●

(空欄の出土地は型式不明)

図1 紀伊半島における中世の備前焼出土分布図

布し、Ⅲ期でみられなかった紀伊半島を東に回り込んだ古座川町佐部城跡(95)や那智勝浦町那智山坊跡(96)、川関遺跡(98)など半島南東沿岸部でも一定の分布を示す。前段階で孤立的に出土がみられた新宮城下町遺跡(99)でも継続的に出土し、新宮川を渡った三重県南牟婁郡紀宝町鵜殿西遺跡(100)にも分布が広がる。また、出土量についても増加し、器種は壺・甕・播鉢の三器種がみられる。

V期においても出土事例は五三例と数多くみられる。Ⅳ期より少ない数値であるが、このうちⅣ期からⅤ期にかけて継続する遺跡は三一例である。また、Ⅴ期単独でみられる事例は二二例あり、十六世紀に新たな出土地が増加したことを示すものと考えられる。特にⅤ期単独でみられる事例は北部地域が十六例と主体を占める。出土量についても増加傾向を示し、器種については壺・甕・播鉢に加えて、水差、建水、水屋甕、徳利、浅鉢、皿、盤などがみられる。ただ、これらの新器種は根来寺遺跡(16)のように大量に出土する遺跡と平須賀城跡(77)のように備前焼は大量に所有しているが、徳利や浅鉢などは数点であるような、新器種を少量もつ遺跡などがあり、所有量や器種の種類については遺跡の性格に左右される点が注意される⁽⁸⁾。なお、平須賀城跡は十六世紀中頃までの遺跡であるが、十六世紀初頭までの時期の八幡山城跡(92)には水屋甕はあるが徳利・浅鉢はみられないことから、新器種は器種によって時間差をもって順次搬入された側面もあると考えられる。八幡山城跡には建水や盤もみられない⁽⁹⁾。

なお、最も北端の沿岸部に位置する西庄Ⅱ遺跡(31)出土のⅤ期の備前焼には、焼成時に大きく焼き歪んだ播鉢などがある。このような、不良品ともいえるものは商品として難があったと考えられることから、備前焼流通に関わった立場の者が自己所有で使用した可能性があり、紀伊湊近隣に立地する西庄Ⅱ遺跡は海運に関わる勢力であったと推定できる。

時期別分布について和歌山県全体をみた場合、Ⅲ期からⅤ期までのも

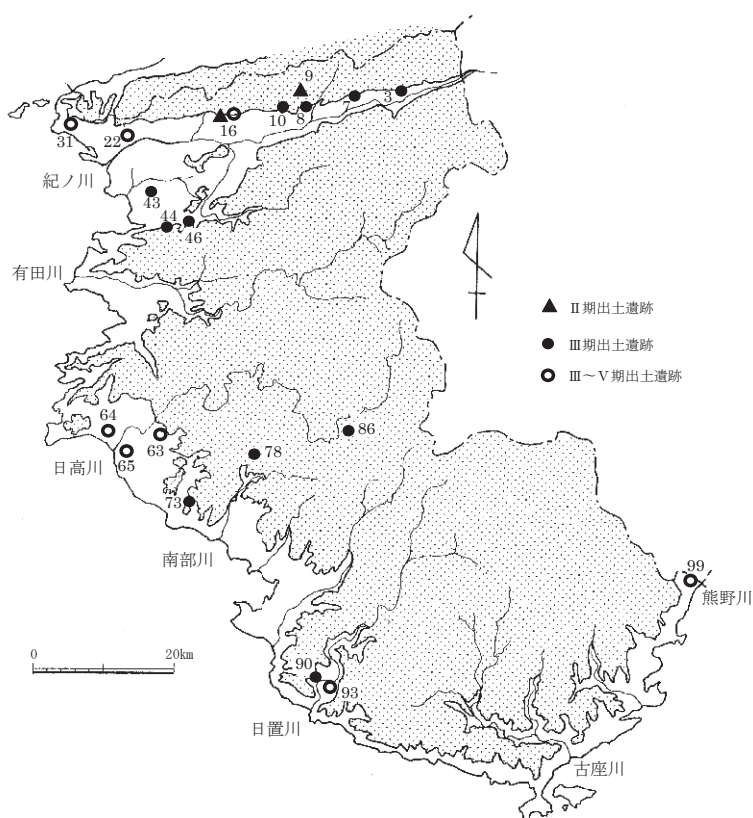


図2 備前焼Ⅱ・Ⅲ期の各出土遺跡とⅢ～Ⅴ期を通じて出土する遺跡

のを合わせて出土する遺跡は、根来寺遺跡(16)、西田井遺跡(22)、西庄Ⅱ遺跡(31)、手取城跡(63)、小松原Ⅱ遺跡(64)、岩内Ⅰ遺跡(65)、安宅本城跡(93)、新宮城下町遺跡(99)の八例に限られ、これらの遺跡は紀ノ川中・下流域三遺跡、日高川流域三遺跡、日置川流域一遺跡、熊野川流域一遺跡であり、それぞれの地域で備前焼を長期にわたって消費し続けた有力な遺跡であると考えられる(図2)。特にⅡ期のものを一定量合わせもつ根来寺遺跡は備前焼流通において特別な存在であるといえる。

紀伊半島南西沿岸部周辺地域において中世城館跡の発掘調査は進展しており、みなべ町平須賀城跡は発掘調査報告書などに出土遺物の種類別

破片数が公表され、遺物組成の特徴が明らかにされている。^⑩その他に発掘調査が行われた周辺の山城に、海南市大野城跡^⑪、田辺市鶴ヶ城跡^⑫などがあり、この二城跡出土土器の破片数を計数し、八幡山城跡と合わせて四城跡で比較を行った。^⑬

搬入品の比較検討の結果、特に八幡山城跡は備前焼が土器全体量の八三%を占めることになり、突出して備前焼の比率が高く、同じ安宅荘内の要害山城跡（備前焼破片数三九五点／総破片数五八五点）も備前焼占有率六七・六%を占め八幡山城跡に次ぐ高比率を示す。これらのことは備前焼流通における安宅荘の流通拠点的な性格を示すものと考えられる。

三 水の子岩引き揚げ資料と長寿寺出土資料

備前焼の流通ルートを考える上で、小豆島南西沖の海上に突き出た通称「水ノ子岩」と呼ばれる岩礁付近の海底から、学術調査によって引き揚げられた大量の備前焼など中世の沈没船の積荷とみられる資料が重要な資料である。水ノ子岩は備前市片上港の南東約三〇kmにあたり、小豆島の東海上約六kmに位置する。そこには海面からわずかに突出した岩礁があり、小豆島の内海町周辺では水ノ子岩と呼ばれている。

岩礁は周囲の水深四〇mの海底から小山のように突き出ており、大小の三ヶ所が海面上に姿を見せるが、満潮時には中と小の二つの岩礁は海面直下の位置となり、船の航行にとっては非常に危険な場所である。

調査は一九七七年に実施され、引き揚げられた資料は備前焼大甕三九個の他、大壺、小壺、播鉢など約二〇〇個であり、長寿寺境内出土の備前焼大甕と形態的に類似するものがあることや他の資料との比較検討などから、南北朝初期の時期であるとされた。^⑭

この備前焼の一括資料として知られる水の子岩沈没船引き揚げ資料は、大量のⅣ期備前焼と共に、紀州あるいは日置川のものと思われるバ

ラスト及び砂岩石材が発見されている。砂岩石材については礎石と考えられることが考察されており、十二本もの数が引き揚げられていることから礎石ストック、あるいは複数の船が沈んでいる可能性について指摘されている。^⑮これらのバラストの一部と礎石について、バラストの分析から紀ノ川流域や日置川流域の岩石組成に類似することが指摘され、この沈没船の船籍は紀州あるいは日置川周辺の可能性が高いと考えられた。

水の子岩引き揚げ資料の類例調査によって、長寿寺（90）出土の備前焼大甕が注目された。西牟婁郡白浜町日置川の長寿寺出土資料は暦應五年（一三四二）の銘をもつ、備前焼における紀年銘を有する最古例である。間壁編年のⅢ期についての基準資料とされるもので、長寿寺の境内から埋甕として掘り出されたものである。出土状況等からみて蔵骨容器として用いられた可能性が高いと考えられている。また、外面胴部に「僧」や「泳ぐ魚」などの絵画が描かれており、備前焼大甕としては他に例を見ないものであること、「あつらふ」と読める線刻文字などから、特別な注文品と考えられている。^⑯なお、安宅本城跡でこの大甕よりやや古い時期の備前焼播鉢が出土しており、長寿寺大甕が搬入される下地は既に先行して存在していたとみられる。

これらの事例やⅢ期からⅣ期に紀伊半島南西沿岸部において大量の備前焼が出土することから、中世に紀伊地域あるいは日置川周辺（安宅荘）と備前との間には海上輸送ルートが設けられていたと考えられる。

四 中世の備前焼流通からみた紀伊半島

紀伊半島における備前焼出土分布を時期別に整理する。

Ⅱ期の分布は、半島北部地域に位置する紀ノ川流域の根来寺遺跡を中心に分布する。備前焼は、まず鎌倉時代中期に紀伊の根来寺遺跡周辺にポイント的に搬入されたと考えられる。

Ⅲ期は北部地域が流通の中心であるといえ、紀伊半島南西沿岸部の主要な城館の周辺にも分布し、半島南西沿岸部の南側に位置する日置川下流域の安宅荘を南限とした地域に一定の面的分布を広げる。また、半島南東沿岸部の新宮城下町遺跡に孤立的分布がみられる点は重要である¹⁷⁾。この時期の備前焼は鎌倉でも出土しており、その流通路として太平洋海上輸送が考えられており、新宮城下町遺跡は中継地として位置付けられる。

Ⅳ期は、出土事例が五八例と急激に増加する。Ⅲ期でみられた紀伊半島南西沿岸部に濃密に面的に分布し、さらにⅢ期でみられなかった紀伊半島を東に回り込んだ川関遺跡など半島南東沿岸部でも一定の面的分布を示す。また、前段階で孤立的に出土がみられた新宮城下町遺跡でも継続的に出土し、熊野川を渡った三重県南牟婁郡紀宝町鶴殿西遺跡まで分布範囲が広がる¹⁸⁾。

Ⅴ期に入ってから多くの出土事例がみられ、その主体を和歌山県北部地域が占める。特に北部地域において十六世紀に新たな出土地が増加する。出土量についても増加傾向を示し、器種は壺・甕・播鉢に加えて、水差、建水、水屋甕、徳利、浅鉢、皿、盤などの新器種が加わる。前段階から一定の面的分布を示した半島南東沿岸部では新宮城下町遺跡で継続的に出土し、熊野川を渡った三重県南牟婁郡紀宝町羽山地遺跡まで分布範囲が広がる¹⁹⁾。しかし、その先の同郡紀和町赤木城跡などの遺跡では出土していない²⁰⁾。

こうした分布からみると備前焼は海路を沿岸部伝いに販路を広げていったと考えられる。当然、その背景には海運を担った勢力や消費地の動向が作用し、その結果の出土遺跡分布とみられる。

これらの遺跡のうち、Ⅲ期からⅤ期までを継続的に所有している遺跡は、根来寺遺跡など紀ノ川中・下流域三遺跡、日高川流域三遺跡、日置川流域一遺跡、熊野川流域一遺跡であり、それぞれの地域で備前焼を長

期間にわたって消費し続けた寺院や城館など有力な遺跡であると考えられる。特に、Ⅱ期のものを一定量合わせもつ根来寺遺跡は備前焼流通において特別な存在であると推定できる。

おわりに

紀伊半島における中世の備前焼流通について、大略を明らかにすることができた。紀伊半島は中世を通じて備前焼流通における商圏拡大の場であったといえ、中世末期には紀伊半島南東沿岸部までを面的流通圏に入れることに成功したといえる。紀伊半島太平洋沿岸部を流通圏に入れることは、関東方面への太平洋沿岸海上輸送ルートの確保といった意味合いも強いものとみられる。特にⅢ期備前焼流通の面的分布最先端の位置を占める安宅荘は、Ⅲ期の特別な注文品と考えられる長寿寺出土大甕の存在、その後の八幡山城跡・要害山城跡からのⅣ・Ⅴ期備前焼大量出土、安宅本城跡でⅢ期からⅤ期までのものが継続的に出土することなどを考え合わせるならば、備前焼の一大消費地と流通拠点の性格を併せ持ち、海上輸送にも水軍領主として関わっていたことを看取できる。また、紀伊半島南東沿岸部の新宮城下町遺跡にⅢ期備前焼の孤立的分布がみられる点は重要である。この時期の備前焼は鎌倉でも出土しており、その流通路として太平洋海上輸送が考えられており、新宮城下町遺跡は中継地として位置付けられる。

本稿は注7文献のうち、北野二〇一九の一部を補訂したものである。

注

- (1) 上西節雄 一九八五「備前焼の生産・流通と大阪地方」『四天王寺―西門とその周辺Ⅱ―(四天王寺学園校舎等建設に伴う発掘調査報告

書』大谷女子大学資料館

- (2) 間壁忠彦・間壁萌子 一九六六～一九六八「備前焼研究ノート」
(1)(2)(3)『倉敷考古館研究集報』(1)(2)(5)、間壁忠彦
一九九一『考古学ライブラリー60 備前焼』ニュー・サイエンス社
- (3) 柴田圭子 二〇〇〇「伊予の中世備前焼」『紀要愛媛 創刊号』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
- (4) 和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所 一九八二『特別展図録 中世のやきもの』
- (5) 北野隆亮 二〇〇二「和歌山県における中世備前焼の流通」『紀伊考古学研究第5号』紀伊考古学研究会
- (6) 北野隆亮 二〇〇五「考古遺物」『日置川町史 第一卷中世編』日置川町誌編さん委員会
- (7) 北野隆亮 二〇一五「備前焼からみた安宅荘」『熊野水軍のさと 安宅荘を考える』城館からみた安宅荘／白浜町教育委員会・安宅荘中世城郭発掘調査委員会、北野隆亮 二〇一九「備前焼流通からみた紀伊水道内海世界」『港津と権力』中世都市研究会編 山川出版社
- (8) 南部川村教育委員会 一九九六『平須賀城跡発掘調査報告書』
- (9) 日置川町教育委員会・安宅荘中世城郭発掘調査委員会 二〇〇四『八幡山城跡』
- (10) 川崎雅史 二〇〇四「平須賀城跡の土器組成」『和歌山城郭研究 第3号』和歌山城郭研究会など
- (11) 海南市教育委員会 一九九五『大野城趾調査報告書』
- (12) 龍神村教育委員会 二〇〇四『鶴ヶ城跡発掘調査報告書』
- (13) 北野隆亮 二〇一四「コラム 遺物組成からみた紀中の中世山城」『特別展きのくにの城と館 ―紀中の戦国史―』和歌山県立博物館
- (14) 山陽新聞社 一九七八『海底の古備前』
- (15) 白井洋輔 一九八二「水の子岩海底出土棒状石材について」『研究報告3』岡山県立博物館
- (16) 北野隆亮 二〇〇五「備前焼流通からみた安宅荘」『日置川町史 第一卷中世編』日置川町誌編さん委員会など
- (17) 公益財団法人和歌山県文化財センター 二〇一八『中世熊野の港湾遺跡新宮津を考える』発表資料』など

- (18) 三重県埋蔵文化財センター 二〇一八『新宮紀宝道路調査ニュース うどのNo.1』、同センター 二〇一九『新宮紀宝道路調査ニュース うどのNo.2』
- (19) 紀宝町教育委員会 二〇一一『羽山地遺跡(第1次) 発掘調査報告』、同教育委員会二〇一四『羽山地遺跡(第2次) 発掘調査報告』
- (20) 三重県紀和町教育委員会 二〇〇五『史跡赤木城跡保存整備事業報告』など

図1 出土地の引用文献(番号対応)

- 1 『平成10年度隅田八幡神社経塚発掘調査概報』橋本市教育委員会 一九九九年
- 2 『利生護国寺』橋本市教育委員会 一九八八年
- 3 『東家遺跡発掘調査概報 ―橋本市立橋本小学校屋内運動場建設事業に伴う緊急発掘調査―』橋本市教育委員会 一八八四年
- 4 『平成元年度橋本市遺跡調査概報』橋本市教育委員会 一九九〇年
- 5 北野隆亮「長藪城跡出土の備前焼」『和歌山城郭研究 第9号』和歌山城郭調査研究会 二〇一〇年
- 6 『金剛峯寺遺跡』和歌山県教育委員会 一九九六年他、報告書多数
- 7 『高尾遺跡 ―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』財団法人和歌山県文化財センター 一九九五年
- 8 『佐野遺跡発掘調査概報Ⅳ』かつらぎ町教育委員会 一九八一年
- 9 『西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡 ―一般国道24号京奈和自動車道(紀北東道路) 改築事業に伴う第1次・第2次発掘調査報告書―』財団法人和歌山県文化財センター 二〇一〇年
- 10 『粉河寺遺跡 ―長屋川通常砂防工事に伴う発掘調査報告書―』財団法人和歌山県文化財センター 二〇一一年
- 11 『紀の川市内遺跡発掘調査概要報告書 ―平成28年度―』紀の川市教育委員会 二〇一八年
- 13・38・55・58・62・68・70・87・88 特別展図録『中世のやきもの』紀伊風土記の丘管理事務所 一九八二年
- 14 『紀の川用水建設事業に伴う発掘調査報告書Ⅱ』和歌山県教育委員会

- 15 『北山廃寺、北山三嶋遺跡——中山間総合整備事業に伴う発掘調査報告書——』財団法人和歌山県文化財センター 二〇一二年
- 16 『根来寺坊院跡 昭和55年度』和歌山県教育委員会 一九八一年他
- 17 『岩出町内遺跡発掘調査概要』岩出町教育委員会 一九九六年
- 18 『西国分Ⅱ遺跡発掘調査概報』社団法人和歌山県文化財研究会 一九八四年
- 19 『山口遺跡第6次発掘調査概報』財団法人和歌山県文化体育振興事業団 一九九九年
- 20 『川辺遺跡発掘調査報告書』財団法人和歌山県文化財センター 一九九五年
- 21・56・66・69・76・85 『和歌山県史 考古資料』和歌山県史編纂委員会 一九八三年
- 22 『西田井遺跡発掘調査報告書』財団法人和歌山県文化財センター 一九九一年
- 23 『田屋・小豆島西遺跡発掘調査報告書——県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良工事に伴う発掘調査——』財団法人和歌山県文化財センター 二〇〇五年
- 24 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報——平成22年度（二〇一〇年度）——』公益財団法人和歌山県文化スポーツ振興財団 二〇一三年
- 25 『六十谷遺跡——都市計画道路路西脇山口線（園部・六十谷）道路改良事業に伴う発掘調査報告書——』公益財団法人和歌山県文化財センター 二〇一三年
- 26 『平井遺跡、平井Ⅱ遺跡——第二阪和国道建設に伴う発掘調査報告書——』公益財団法人和歌山県文化財センター 二〇一七年
- 27 『中野遺跡第2次発掘調査概報』財団法人和歌山県文化体育振興事業団 一九九八年
- 28 北野隆亮『和歌山平野における円錐形鉛インゴットと鉛製鉄砲玉——城山遺跡の「織豊系陣城」評価と出土遺物の検討——』『紀伊考古学研究第16号』紀伊考古学研究会 二〇一三年
- 29 『木ノ本Ⅲ遺跡第7次発掘調査概報』財団法人和歌山県文化体育振興事業団 一九九〇年、『木ノ本Ⅲ遺跡第3次発掘調査報告書』和歌山市教育委員会 一九九二年
- 30 松下彰『和歌山県出土の埋銭』『摂河泉文化資料』摂河泉地域史研究会 一九九三年
- 31 辻林浩『検出遺構からみた西庄Ⅱ遺跡について』『和歌山県史 中世』和歌山県史編纂委員会 一九九四年
- 32 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報——平成23年度（二〇一一年度）——』公益財団法人和歌山県文化スポーツ振興財団 二〇一四年
- 33 『岩橋高柳遺跡——井ノ口秋月線道路改良工事に伴う発掘調査報告書——』財団法人和歌山県文化財センター 二〇〇四年
- 34 『鳴神地区遺跡発掘調査報告書——一般国道24号線バイパス関連遺跡発掘調査——』和歌山県教育委員会 一九八四年
- 35 『秋月遺跡第6次発掘調査概報』財団法人和歌山県文化体育振興事業団 一九九八年、『秋月遺跡発掘調査概報』財団法人和歌山県文化財センター 一九九七年
- 36 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報6』財団法人和歌山県文化体育振興事業団 二〇〇〇年他
- 37 『史跡和歌山城石垣保存修理報告書』和歌山県産業部・和歌山城管理事務所 一九九九年他
- 39 北野隆亮『雑賀崎台場跡表採の陶磁器』『和歌山城郭研究 第17号』和歌山城郭調査研究会 二〇一八年
- 40 『津秦Ⅱ遺跡第4次発掘調査報告書』公益財団法人和歌山県文化スポーツ振興財団 二〇一四年
- 41 『井辺遺跡、神前遺跡——都市計画道路松島本渡線（神前南）道路改良事業に伴う発掘調査報告書——』公益財団法人和歌山県文化財センター 二〇一四年
- 42 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報6』財団法人和歌山県文化体育振興事業団 二〇〇〇年他
- 43 『坂田遺跡発掘調査報告書——県道三田三葛線道路改良工事に伴う発掘調査——』財団法人和歌山県文化財センター 二〇一一年
- 44 『大野城趾調査報告書』海南市教育委員会 一九九五年
- 45 『海南市内遺跡発掘調査概報——平成10年度——』海南市教育委員会 一九九九年

- 46 『木津遺跡 ― 国道424号道路改良事業に伴う発掘調査報告書―』公益財団法人和歌山県文化財センター 二〇一五年
- 47 『下佐々Ⅲ遺跡発掘調査概要』野上町教育委員会 一九八五年
- 48 『福田地区遺跡詳細分布調査報告書』美里町教育委員会 一九八三年
- 49 北野隆亮「来見屋城跡出土の陶磁器」『和歌山城郭研究 第14号』和歌山城郭調査研究会 二〇一五年
- 50 『粟生遺跡 ― 県道有田・高野線改良工事に伴う縄文時代遺跡発掘調査概報―』財団法人和歌山県文化財センター 一九八八年
- 51 『重要文化財長樂寺仏殿修理工事報告書』和歌山県教育委員会 一九九四年
- 52 『藤並地区遺跡 ― 県道吉備金屋線道路改良工事に伴う発掘調査報告書―』公益財団法人和歌山県文化財センター 二〇一二年、『藤並地区遺跡 ― 一般国道42号(湯浅御坊道路) 4車線化事業に伴う発掘調査報告書―』公益財団法人和歌山県文化財センター 二〇一九年
- 53 『深専寺 ― 深専寺本堂屋根修復工事竣工記念―』深専寺 二〇〇一年
- 54 北野隆亮「湯浅城跡出土の備前焼」『和歌山城郭研究 第12号』和歌山城郭調査研究会 二〇一三年
- 57 北野隆亮「広城跡・要害山城跡出土の備前焼」『和歌山城郭研究 第5号』和歌山城郭調査研究会 二〇〇六年
- 63 北野隆亮「手取城跡出土の備前焼大甕」『和歌山城郭研究』第3号 二〇〇四年
- 64 『県立御坊商工高等学校埋蔵文化財発掘調査概報 ― 小松原Ⅱ遺跡(湯川氏館跡)の調査―』和歌山県教育委員会 一九八七年、『県立御坊商工高校格技場等建設に伴う小松原Ⅱ遺跡(湯川氏館跡)発掘調査報告書』財団法人和歌山県文化財センター 一九九六年、『小松原Ⅱ遺跡・湯川氏館跡 ― 湯川中学校改良工事に伴う発掘調査報告書―』公益財団法人和歌山県文化財センター 二〇一六年
- 65 『広域営農団地農道整備事業に伴う岩内古墳群他埋蔵文化財発掘調査概報』御坊市遺跡調査会 一九八七年
- 67 『海底の古備前』山陽新聞社 一九七八年
- 71 『国鉄紀勢本線々増工事関連埋蔵文化財発掘調査概報』和歌山県教育委員会・社団法人和歌山県文化財研究会 一九七六年
- 72・73 北野隆亮「城山城跡ⅠⅡⅢ(鳴神城跡・榎城跡)出土の陶磁器」『紀伊考古学研究 第12号』紀伊考古学研究会 二〇〇九年
- 74 川崎雅史「遺物からみた平須賀城・市谷山城の時期」『和歌山城郭研究 第2号』和歌山城郭調査研究会 二〇〇二年
- 75 『南部町史 史料編』南部町史編さん委員会 一九九一年
- 77 『平須賀城跡発掘調査報告書』南部川村教育委員会 一九九六年
- 78 北野隆亮「鳶之巣城跡出土の陶磁器」『和歌山城郭研究 第16号』和歌山城郭調査研究会 二〇一七年
- 79 『徳蔵地区遺跡 ― 近畿自動車道松原那智勝浦線(御坊く南部)建設に伴う発掘調査報告書―』財団法人和歌山県文化財センター 二〇〇五年
- 80 『高田土井城跡・徳蔵地区遺跡・大塚遺跡 ― 県道上富田南部線道路改良工事に伴う発掘調査報告書―』財団法人和歌山県文化財センター 二〇〇六年
- 81 『高山寺遺跡発掘調査概報』田辺市教育委員会・紀南文化財研究会 一九八一年
- 82・83 『田辺市史 第4巻 史料編Ⅰ』田辺市史編纂委員会 一九九四年
- 84 川口修実「高尾山経塚出土骨蔵器の検討」『紀伊考古学研究』第6号 二〇〇三年
- 86 『鶴ヶ城跡発掘調査報告書』龍神村教育委員会 二〇〇四年
- 89 『平成21年度白浜町内遺跡発掘調査概報』白浜町教育委員会 二〇一一年、『平成22年度白浜町内遺跡発掘調査概報』白浜町教育委員会 二〇一二年
- 90 内川隆志「暦應五年の紀年銘を有する古備前大甕について」『考古学資料館紀要 第17号』國學院大學考古学資料室 二〇〇一年、北野隆亮「長寿寺境内出土の備前焼大甕」『日置川町史 第一巻 中世編』日置川町誌編さん委員会 二〇〇五年
- 91 『平成23年度白浜町内遺跡発掘調査概報』白浜町教育委員会 二〇一三年
- 92 『八幡山城跡』日置川町教育委員会・安宅荘中世城郭発掘調査委員会

- 二〇〇四年
- 93 北野隆亮「遺物組成からみた安宅本城跡」『日置川町史 第一巻 中世編』日置川町誌編さん委員会 二〇〇五年
- 94・95 堀口建次「紀南の中世城郭にて表面採集の備前焼 ―佐部城と神田城の資料から―」『和歌山城郭研究 第11号』和歌山城郭調査研究会 二〇一二年
- 96 『和歌山県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業に係る埋蔵文化財関連資料整理概報 ―和歌山県内6遺跡の概要報告書―』和歌山県教育委員会・公益財団法人和歌山県文化財センター 二〇一二年
- 97・98 『藤倉城跡・川関遺跡』財団法人和歌山県文化財センター 二〇〇四年
- 99 『中世熊野の港湾遺跡新宮津を考える』発表資料』公益財団法人和歌山県文化財センター 二〇一八年
- 100 『新宮紀宝道路調査ニュース うどのNo.1』三重県埋蔵文化財センター 二〇一八年、『新宮紀宝道路調査ニュース うどのNo.2』三重県埋蔵文化財センター 二〇一九年
- 101 『羽山地遺跡（第1次）発掘調査報告』紀宝町教育委員会 二〇一一年、『羽山地遺跡（第2次）発掘調査報告』紀宝町教育委員会 二〇一四年